

1 次素案からの主な修正点

《主な変更》

1. 1次素案の「施策目標」を「基本目標」の本文に入れ、「プランの方向性」を「施策目標」とした。それに合わせ、文言も修正<10・11ページ。別添比較表参照>
2. 「重点施策と数値目標」（第1次素案では、「主な施策と目標」と表記。以下、「数値目標等」と略す。）を大項目（「乳幼児期」「子ども期」等）ごとに1つずつとし、24施策を11に絞った。<56ページ。別添比較表参照>

《検討会議での意見を反映》

3. 「外国人」と「外国人県民」の表記の統一を
⇒一般論として、外国人について述べている場合は、「外国人」、施策の対象になったり、本県の外国人が主となる場合は「外国人県民」を使う。<2ページ他>
4. 方向性のマークの工夫。文言も付随させる
⇒文言追加。デザインは委託<11ページ>
5. 「施策体系図」と「数値目標等」の記述を合わせる
⇒1次素案では、「数値目標等」が「プランの方向性」の順に沿って記載しており、「施策体系図」とは対比しづらかったが、「プランの方向性」を「施策目標」とすることにより、「施策体系図」と「数値目標等」は対比しやすくなった。
なお、「施策体系図」の推進施策は項目を記載しており、「数値目標等」は具体的な内容を記載してあるため、文言は合わない。<13・56ページ。別添比較表参照>
6. 障害者に関する記述がないことに違和感を覚える。福祉の観点をもっと入れる。また、世帯全体で支える、地域全体をつなぐ仕組みなども必要
⇒追加<14左・33右ページ>
7. 施策のポイントの順番をライフサイクルに合わせて見直してはどうか。
⇒見直した<14～16ページ。別添比較表参照>
8. 「日本語と安定した仕事」に記載してある進学や就職に必要な日本語教育については、「子どもの教育の充実」のところに入れてはどうか。
⇒見直した<14右ページ>
9. これからの課題として、「高齢化の問題『も』あります」に修正。オールドカマーの記述もほしい。
⇒修正、追加<15右ページ>

10. 外国籍のリーダーが補ったり、自主的な人材育成の取組も入れる。
⇒追加<16 右ページ>
11. 各施策の後の【 】内の数字がわかりにくい。
⇒注を追加<17 ページ>
12. ライフサイクル図の●●期の目安の年齢があるといい。ブラジル人学校健康診断は外国人学校へ
⇒修正<18・19 ページ>。なお、ライフサイクル図は、イメージとして示したものである旨、明記。
13. 進路開拓ガイドブックをどう使うかが具体的にあるといい。
⇒修正<25 左ページ>
14. なぜ高校を中退するのか、どんなサポートが必要か等、高校進学した子の実態を把握してサポートを。
⇒修正<27 右・28 左ページ>
15. 15歳から19歳の労働力状態のグラフに関して本文で触れてほしい
⇒修正<28 ページ>
16. 「労働者憲章」を知らない企業が多い。もう少し具体的に書けないか。就労の部分が弱い。
⇒修正<30 右・31 左ページ>
17. 生活困窮者に対する貸し付けを社協でやっているのので記述を
⇒修正<32 右ページ>
18. 初期日本語教育の目標に関する記述がほしい
⇒修正<34 右ページ>
19. 高齢者の無年金の人がいる。今一度、社会保険加入を指導してほしい。
⇒修正<38 右ページ>
20. 多文化ブレインズとは具体的に誰が何をするのか。
⇒再検討した結果、「多文化ブレインズ」という任命を伴う特別な制度は作らず、本県の施策情報を有識者や支援者に定期的に情報提供することにより、継続的なつながりを持ち、ご意見や助言をいただくこととした。記載変更<44 左ページ>
21. 共生デザインの図がわかりにくい。障害者も対象と考えているのか。
⇒障害者も対象となるよう修正。デザインを委託<45 ページ>

22. 定住外国人は日本に詳しく、新しく入ってきた人は母国に詳しい。うまくマッチングできないか。

⇒追加<46 左ページ>

23. 多国籍化が進む中、多言語化を進めていくことに違和感を覚える。日本語をもっと教えてはどうか。日本人には「やさしい日本語」を教えるというのもある。

⇒追加<48 右ページ>

24. 市町村はどれだけ多文化プランを持っているのか。策定を働きかけるべき

⇒追加<51 左ページ>

25. もっと県図書館の多文化コーナーを充実してほしい。

⇒修正<53 右ページ>

26. 不就学児童の数値目標は0にすべきでは。

⇒0を目指すべきではあるが、計画期間が5年間であることを踏まえ、現実的な数値目標としたい。<56 ページ>

«こども部会での意見を反映»

27. 働かないといけない環境にあることも配慮。働きながら勉強できる環境、次へ行ける環境が必要。

⇒追加<14 右ページ>

28. 最近はあまり「ダブルリミテッド」と言わないのではないか。

⇒削除・修正<21 右ページ>

29. 進路ガイドブックは古くなっているので更新を。

⇒追加<25 左ページ>

30. 日本国籍で日本語指導が必要な生徒数の関係をどうするか。また、公立学校でなく、国公立私立の在籍人数のグラフにできないか。

⇒私立も含む小中学校在籍児童数に変更。また、日本語指導が必要な児童生徒数は公立のみであり、日本国籍で日本語指導が必要な児童生徒を一つのグラフにすることは難しいため、日本語指導が必要な児童生徒は別のグラフにした。<22・25 ページ>

31. 不就学の子どもにどう働きかけるかが問題。孤立させないという視点が必要。不就学の子のための進路選択一覧表を作成し、選択肢を示してはどうか。

⇒修正<23 左ページ>

32. 日本語指導が必要な児童生徒は、外国籍だけでなく日本国籍も含めて考えてほしい。

⇒修正<26 左ページ>

33. 外国人特別枠の議論ができる場がほしい。また、外国人特別枠のある高校の特徴を明記したものがあるといい。外国人特別枠校にとらわれずに外国人を受け入れている学校間の情報共有を図れるとよい。

⇒プランに書いてなくても毎年度議論をすることになっていることから記載せず。

外国人特別枠の高校に関する情報提供については追加。

高校間の情報共有は必要に応じてされていると考えられるが、教育委員会として把握することは困難とのこと。外国人の子どもたちのためのプロジェクトチームにおいて引き続き議論。

<27 左ページ>

34. 奨学金は返済があるので注意が必要。せっかく高校や大学に入っても続かないので、入ってからのことも大切である。

⇒追加<28 右・29 左ページ>

35. 高校の在籍率は出せないか。定時制と全日制の比率を示せないか

⇒定時制と全日制の比率を出すのは難しいとのこと。在籍率は追加<28 ページ>

36. 国際理解教育、道徳、総合の時間を活用した子どもの理解促進や国際担当教員の手助けになるようなものがあるといい。日本人と一緒に考えて子どもが自主的に考えるといい。愛知県らしい道徳教育になるのではないか。

⇒追加<54 左ページ>

«その他»

○タウンミーティング、名城高校との意見交換を踏まえた箇所は、本文 74 ページから 79 ページに記載

○多文化共生フォーラムあいち 2017 を踏まえ、17 ページ右、37 ページ右に文言を追加。

○その他、文言の整理等を行った。